

今後の学校のあり方（資料1）は、これまでに策定・実施している既存計画を施設面において下支えすることで、より実効性のある計画にしていくことを目指している。

あり方を示すにあたっては、既存計画の内容及び関係性について確認しておく必要があることから、この「資料2」では、関係する各計画に表されている内容を示した上で、答申をいただいた後に策定することとしている計画が、どのような位置づけとなるものかを示している。

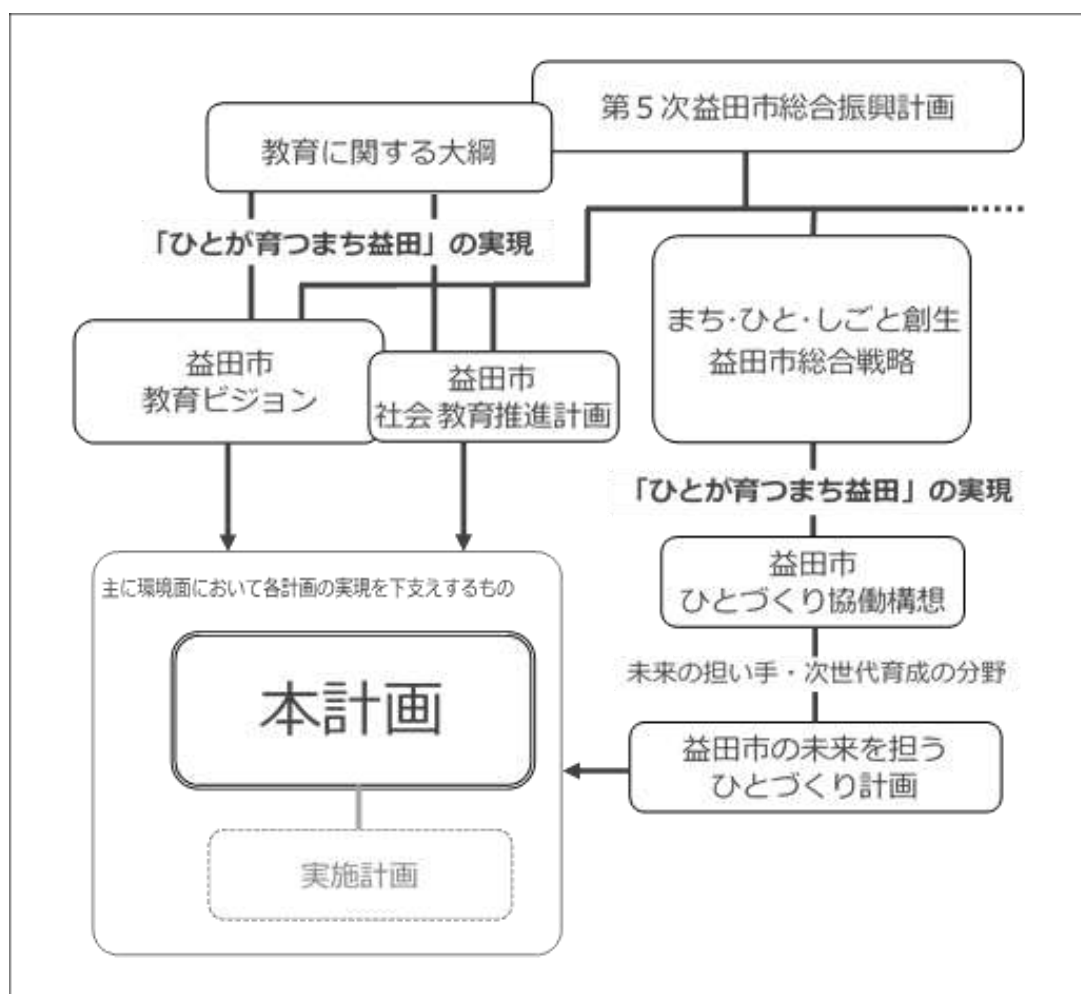


図 本計画の位置づけと既存計画との関係

【教育に関する大綱】

位置づけ：第 5 次益田市総合振興計画などに掲げた施策等と連携・協働して、市が早期かつ重点的に推進すべきものを示したもの（基本的方針）

策定年月：平成 27 年 6 月

策定組織：益田市（総合教育会議で協議）

重点項目

- 教育と子育て支援の一体化
学校施設を有効に活用し子どもたちを育む機能を高める
- 学力育成を支えるための施策の推進
子ども達が将来への視野を広げ、自らの可能性を広げることのできる教育を推進
- ふるさと教育の推進
より郷土愛と人間性を育む機会を充実させる
- ライフキャリア教育・企業家教育による人材の育成
将来の益田を担うことのできる人材育成を推進

【まち・ひと・しごと創生益田市総合戦略】

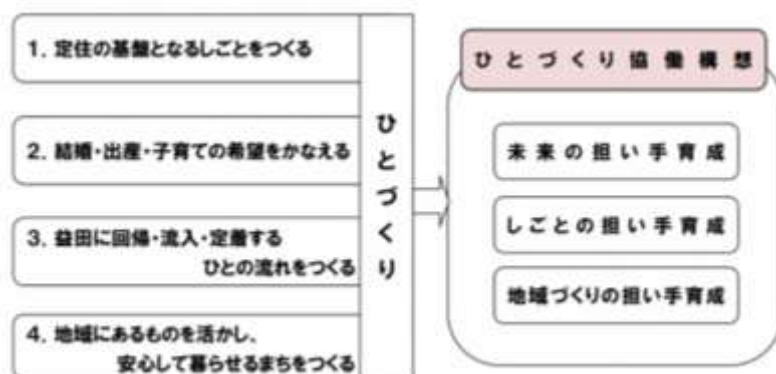
位置づけ：第 5 次益田市総合振興計画・益田市人口拡大計画の方向性を基本としつつ、効果的に人口拡大を目指すもの

策定年月：平成 27 年 10 月

策定組織：益田市

有効期間：平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間

第Ⅱ章 基本目標



4つの基本目標のいずれにおいても「ひとづくり」が欠かせない要素。

「ひとが育つまち益田」の実現をめざし「ひとづくり」に取り組むこととしている。

ひとづくりのうち「未来の担い手育成」に関しては、

- ・ 小学生期には、豊かな感性を育てるため、地域で輝いて暮らしているひととの出会いや、地元の仕事を学ぶ体験の場づくりを進める
 - ・ 中学生期には、自分や地域をより良くしようとする力や周囲から必要とされる喜びを感じる心を育てるため、先輩や地元企業有志の体験や取組を聞く場づくりを進める
- を掲げている。

【益田市教育ビジョン】

位置づけ：教育基本法に基づく「教育振興基本計画」。第5次益田市総合振興計画との整合を図りながら、長期的到達目標を示し、全庁的な課題として取り組むもの（基本的方針及び具体的な施策）

策定年月：平成26年2月

策定組織：益田市教育委員会

有効期間：策定から10年間

- ・ 学校・家庭・地域の教育力を発揮し、子どもの力を引き出す「**教育**」を推進
- ・ 学校・家庭・地域が強み・弱みを理解し、自らを高めていくともに高まる「**共育**」を推進
- ・ 学校・家庭・地域が協力して教育効果を高める、三者の教育力を結集した「**協育**」を推進
「すべての教育活動を地域総ぐるみで行う」

基本目標

ふるさとを愛情を持って語り、地球的視野に立って社会貢献する自立した子ども
(重点目標は本文を参照)

【益田市社会教育推進計画】

位置づけ：教育基本法に基づく「教育振興基本計画」。第5次益田市総合振興計画との整合を図りながら、社会教育の更なる発展と充実をめざすもの（基本的方針及び具体的な施策）

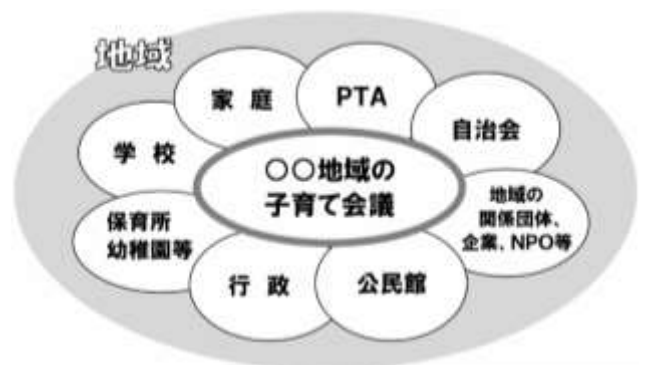
策定年月：平成26年2月

策定組織：益田市教育委員会

有効期間：平成35年度までの10年間

I. 基本目標について

- 1) 就学前機関・学校・家庭・地域が連携した教育の推進
 - ・ 地域の宝である子どもたちを地域ぐるみで育てよう
 - ・ 子どものみならず、関わる地域の大人自身の成長や地域づくりにもつながる
➡ つろうて子育て協議会を発展させ、地域の実情に沿った組織化を進める
- 2) 市民の学びの推進
 - ・ 生涯学び続けていくことで、豊かな人生を送ることができる
 - ・ 子どもが地域社会の構成員として関わる
ことができる社会体験を充実させる
- 3) ふるさと教育の推進
- 4) 社会教育関係団体の充実と人材育成



【益田市ひとづくり協働構想】

- ・位置づけ：益田市総合戦略に掲げる4つの基本目標いずれの分野においてもひとづくりを推進する施策に取り組むこととしており、「ひとが育つまち益田」の実現を目指し、ライフステージごとの取組を体系立てるために策定
- ・策定年月：平成28年3月
- ・策定組織：益田市

2. 目指す人のすがた

- 1) 将来の益田市を支えるため、自らの可能性を広げることのできるひと
- 2) しごとを継続発展させるひと しごとを創り出せるひと
- 3) 地域のひとと協力し、地域を支えるひと 地域の資源を活かせるひと

3. 構想実現への基本的な方向（3つのうち1つを抜粋）

1) 未来を支える担い手育成

「子ども達に生きるための材料提供」「生き方を学ぶための沢山の選択肢」を持ってもらうための場づくりを加える。また地域のロールモデルを学び、地域づくり活動への参画機会の創出を行う。

4. 具体的な取組施策（6つのうち2つを抜粋）

2) 小学生期

小学生期は、地域で暮らし活躍する人との出会いを通じて現在の益田市像を知る活動に取り組みます。できるだけ多様な人材と出会い、話したり質問したりするコミュニケーションの場を重視します。こうした取組から、「しごとを学ぶ」機会や地域で活動されている人の話を聞くなど、益田暮らしの楽しさやふるさと益田の良さ、地元企業を知る機会をつくる施策を実施します。

また地域の人たちと家庭・学校が一体となって子どもを育てていく取組を推進します。

3) 中学生期

中学生期は多感な時期であり、様々な課題を抱える時期でもあります。大人になる入口に差し掛かっており、周りの大人の関わり方が極めて重要な時期です。そこで「誰かのために」「地域のために」自分たちができることを考えながら行う行動プログラムを展開していきます。こうした活動を通じて、地域社会を「知識」だけでなく「自分が行動する・活動する場」として掴み取っていくことに重点を置き、実際の行動へつなげていきます。

また、他の学校との交流会や先輩との交流など、多様な価値観に触れる機会を創出するとともに、職場体験や市内企業の経営者等の話を聞く機会の創出、地元企業の紹介などを通じてキャリア教育に取り組みます

【益田市の未来を担うひとづくり計画】

- ・位置づけ：「ひとづくり協働構想」における目指す人の姿を実現させるため、「ひとづくり」を体系化する（特に未来の担い手・次世代育成に関する取組を示した）もの
- ・策定年月：平成 27 年 12 月
- ・策定組織：益田市

2－1. これからの教育観

1) 安全圏から踏み出してチャレンジできる教育

成長に応じて、新たなチャレンジを行っていくことが、自己発見や自己啓発につながり、人生の中で様々な課題に直面した場合にも乗り切る力になる。大人のサポートがありながらも、こうした安心してチャレンジする教育環境が必要。

2) 魅力化の教育で持続可能な地域社会を形成していく

「Think Globally , Act Locally（地球規模で考え、足元から行動せよ）」という言葉に代表されるように、地球的な視野や見識を持ちながら地域で活躍する魅力的な「グローバル人材」を創出していく教育を推進する。

3) 地域総がかりで多様に関わり、人生の足場をつくる

人は多様な環境に関わることで、多様な経験をし、多様な力を身に着けることができる。大人になるまでに様々な人と、様々な環境で過ごす時間をできるだけ多くすることは、子どもたちの育ちにおいても、教育の質と量を担保し、大人になった時の生き方の選択肢を広げていくことにつながる。

2－2. 人生観を育むライフキャリア教育へ（2つのうち1つを抜粋）

2) 社会力と学習力が調和した志が導く人生観

益田の大人が用意できる教育環境の多くは、高校を卒業するまでの時間。より自分らしい人生観を追い求めるためには、対人関係やコミュニケーションを必要とする社会力を持つことで、より豊かな経験を積むことができる。

自分は将来どんな立ち位置で、社会においてどんな役割を果たしていきたいのか、より具体的な志を持てる教育環境を整備したい。



2-5. ライフキャリア教育プログラム概要（2つのうち1つを抜粋）

2) 各段階（「in」「about」「for」「with」）の位置づけ（4つのうち2つを抜粋）

- ・地域について知る・伝える（about）

主に小学校期を通じて、地域で暮らし活躍する人との出会いを通じ、現在の益田市像を知る。自分たちの生活する地域がどんな人たちによって支えられているのかを知っていく活動

- ・地域のために行動・貢献（for）

中学校期からは「誰かのために」「地域のために自分たちができること」を考え、貢献活動を通じたプログラムを展開。自分の興味関心と社会の中で必要とされることなどを合わせながら行動する機会を提供。